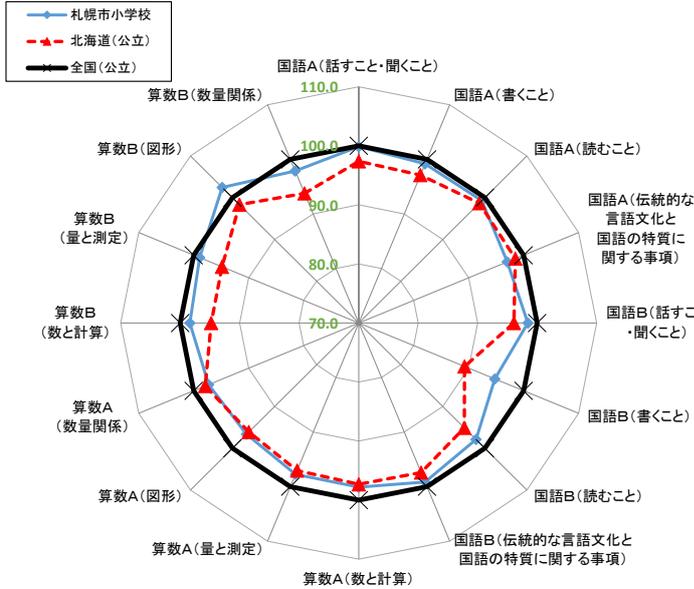


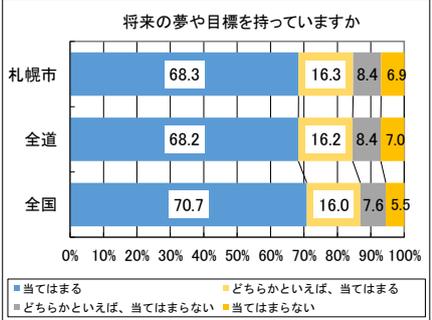
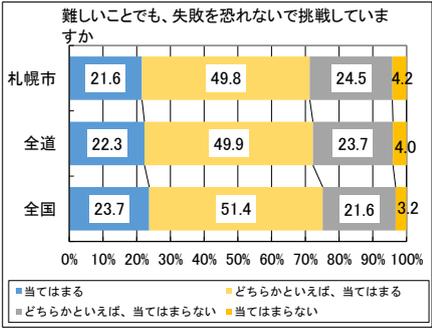
札幌市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:203校、児童数:14,957名)

【教科全体の状況】

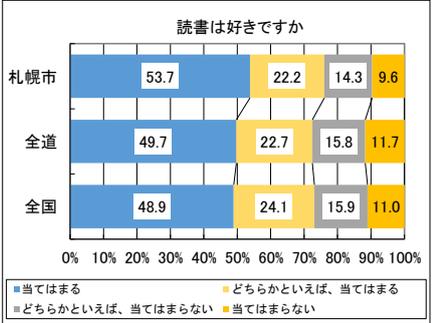
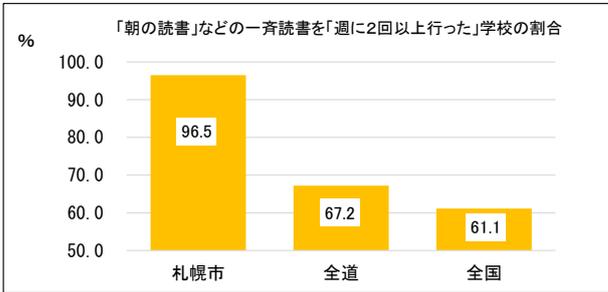
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科領域で全国平均と比較して、ほぼ同程度の状況であるが、算数B(図形)を除く、全ての教科領域(15領域)で、全国平均正答率をやや下回っている。 ○ 国語A(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)と算数A(数量関係)を除く、全ての教科領域(14領域)で、全道の平均正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識・技能の定着(国語A・算数A)については、小学校国語(漢字を書くこと)、算数(減法と乗法の混合した整数の計算や、異分母の加法の計算など)に課題。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」児童の割合は、71.4%であり、平成19年度(69.8%)に比べ増加しているが、全国平均より3.7ポイント低い状況。 ○ 「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は、84.6%であり、平成19年度(81.5%)に比べ増加しているが、全国平均より2.1ポイント低い状況。 ○ 読書が好きな児童の割合は75.9%であり、平成19年度(72.0%)に比べ増加し、全国平均より2.9ポイント高い状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「筋道を立てて考え、問題解決の方法を記述すること」や「課題を解決して、自分の考えをもつこと」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、課題。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝の読書」などの一斉読書の時間を「週に2回以上行った」学校の割合は、全国と比べて35.4ポイント上回っている。 	

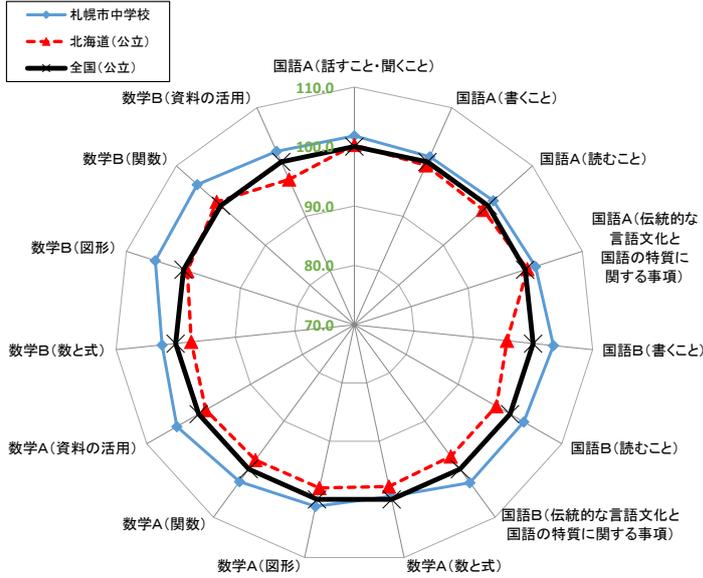
【札幌市の学力向上策】

- ◎ 「学ぶ意欲」「学んだ力(基礎的・基本的な知識・技能)」「活かす力(思考力・判断力・表現力等)」の「学ぶ力」の3要素をバランスよく育むため、平成26年度から新たな「札幌市教育振興基本計画」の重要項目として、教育委員会、学校、家庭、地域が一体となった取組を進める「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」(以下、「プラン」)を位置付け、実行している。
- ◎ 具体的には、プランに基づき、各学校が、学力調査等から明らかとなった自校の成果や課題を踏まえた改善策を「学ぶ力」育成プログラムとしてとりまとめて実行して、「分かる・できる・楽しい授業づくり」を推進することにより、子ども一人一人の「学ぶ力」の育成に努める。また、その取組について、全国学力・学習状況調査の結果分析等と併せて学校HPに掲載するなどして、保護者等に丁寧な説明を行いながら、学校、家庭が一体となって「学ぶ力」を育成する取組を推進する。
- ◎ 教育委員会として、「札幌市全体の共通指標」(20項目の評価項目)を、各種学力調査に加えて導入し、「学ぶ力」をさらに幅広く評価し、指導方法等の工夫改善を図る。また、札幌市のWeb教材「問題データベース」の活用や習熟度別を含む少人数指導を一層促進するなど、個に応じた指導の充実を図る。

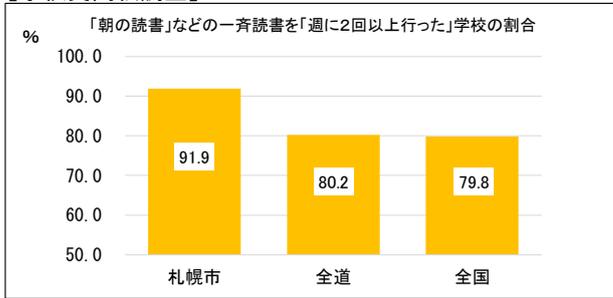
札幌市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:98校、生徒数:14,086名)

【教科全体の状況】

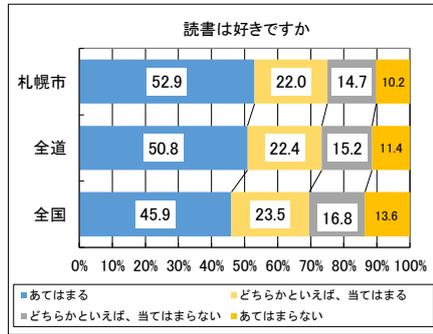
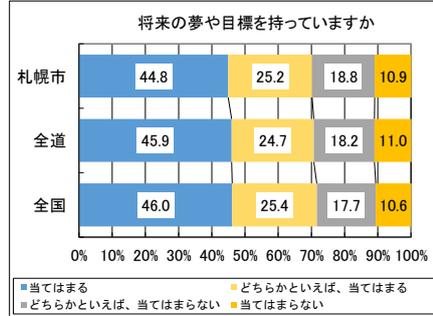
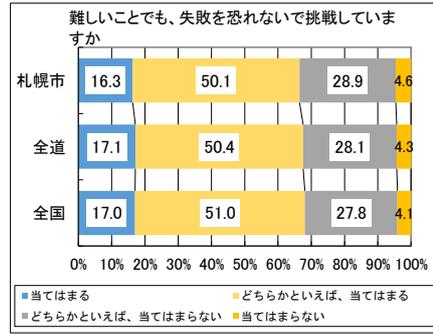
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学A(数と式)を除く、全ての教科領域(14領域)で、全国平均正答率を上回っている。 ○ 全ての教科領域(15領域)で、全道の平均正答率を上回っている。特に、「活用」(問題B)に関しては、国語、数学ともに、全道の平均正答率を上回る割合が高い状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「活用」に関しては、全国平均正答率を上回る問題が見られている。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」生徒の割合は、66.4%であり、平成19年度(62.7%)に比べ増加しているが、全国平均より1.6ポイント低い状況。 ○ 「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は、70.0%であり、平成19年度(69.2%)に比べ増加しているが、全国平均より1.4ポイント低い状況。 ○ 読書が好きで生徒の割合は74.9%であり、平成19年度(66.5%)に比べ増加し、全国平均より5.5ポイント高い状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「筋道を立てて考え、問題解決の方法を記述すること」や「課題を解決して、自分の考えをもつこと」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、課題。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝の読書」などの一斉読書の時間を「週に2回以上行った」学校の割合は、全国と比べて12.1ポイント上回っている。 	

【札幌市の学力向上策】

- ◎ 「学ぶ意欲」「学んだ力(基礎的・基本的な知識・技能)」「活かす力(思考力・判断力・表現力等)」の「学ぶ力」の3要素をバランスよく育むため、平成26年度から新たな「札幌市教育振興基本計画」の重要項目として、教育委員会、学校、家庭、地域が一体となった取組を進める「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」(以下、「プラン」)を位置付け、実行している。
- ◎ 具体的には、プランに基づき、各学校が、学力調査等から明らかとなった自校の成果や課題を踏まえた改善策を「学ぶ力」育成プログラムとしてとりまとめて実行して、「分かる・できる・楽しい授業づくり」を推進することにより、子ども一人一人の「学ぶ力」の育成に努める。また、その取組について、全国学力・学習状況調査の結果分析等と併せて学校HPに掲載するなどして、保護者等に丁寧な説明を行いながら、学校、家庭が一体となって「学ぶ力」を育成する取組を推進する。
- ◎ 教育委員会として、「札幌市全体の共通指標」(20項目の評価項目)を、各種学力調査に加えて導入し、「学ぶ力」をさらに幅広く評価し、指導方法等の工夫改善を図る。また、札幌市のWeb教材「問題データベース」の活用や習熟度別を含む少人数指導を一層促進するなど、個に応じた指導の充実を図る。